

---

# IS インフィニット・ストラトス ~力の使い道~

桜前線345

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

IS インフィニット・ストラトス ～力の使い道～

### 【Nコード】

N3372T

### 【作者名】

桜前線345

### 【あらすじ】

IS インフィニット・ストラトスの二次創作でオリジナル主人公です。

原作キャラとの掛け合い、原作の考察なんか出来たら良いなと思っています。

## 一話

1 ISと呼ばれる女性のみが扱えるパワードスーツが登場してから世界は大きく様相を変えた。

既存のあらゆる兵器はISに居場所を取られ男性は後方へ、そして女性が戦う時代になった。

戦場だけでなく社会的に、政治的に女性が台頭し、女性優遇の時代にもなった。

これは私、葛城頼人かつらぎたのもとが生まれてから十数年で今の時代が出来上がった。

こんな時代に嘆く男は大勢いる。ウチの会社である葛城技術研究所でも整備担当の榊田さんやシゲルさんやら時々愚痴を吐いている。

某IS学園に行つて整備を担当した時の感想は、「なんで整備のイロハもわからん娘つ子に顎で使われなきゃなんのか。桔梗ききょうちゃんぐらい真面目に聞いてくれりゃ俺らも頑張るのに」だそうだ。

桔梗、葛城桔梗と言うのは私の姉だ。

葛城技研で今はISの研究をしている。昔はかの「白騎士事件」で有名になった白騎士そのもののハードウェア開発にパワードスーツ技術の研究経験と知識を活かして携わった事があるそうだ。

その時に、かのモンドグロツソ優勝者である織斑千冬と知り合い今でもごくたまに手紙のやり取りをしている。

そして、IS開発の第一人者であり全ての原因でもある篠ノ之束博士とはかなり深い交流があったそうだがISの武装化の点で対立し疎遠になったと聞いた。

ここまでの話だと大抵の人は姉を気難しい科学者だと思つようだが、そんな事は無くて優しく、心からのお人好しだと弟の私はそう思う。何せ私が事故で四肢をダメにした時、自分の経験、技術で私を助け

たいとISを応用した義肢の研究を始めたのだから。相当なお人好し、或いはブラコンである。

さて、私を取り巻く環境の一端を粗方説明したところで、自分自身の話をしようと思う。

私は中学生の時、両親と旅行中に土砂崩れに巻き込まれて生死を彷徨う怪我を負い、その事故で両親は亡くなり、私は四肢の自由が効かなくなり、ベッドの上の生活を余儀なくされた。

私はこの事故で何かを恨むつもりも無いし、恨み様も無いと考えている。たまたま物凄く不幸な目にあつたとそのぐらいの認識だ。

だが姉は違った。

実は旅行そのものは部活動のロッククライミングでスランプだった私を見かねた姉の勧めで行つたのだ。

「たまには気晴らしに出掛けたら？」

そんな弟を心配する姉の一言を受け私は両親と旅行に出掛けたのだ。それを姉は自分のせいで事故にあつたと思つている。

それから姉は狂つたように義肢の研究に没頭し始めた。

くる日も、くる日も姉は研究所と病院を往復する毎日を繰り返した。

勿論、周りの人は心配したし、整備の榊田さんやシゲルさん達も心配した。いつか姉が自身を壊してしまうのでは無いかと。

そんな環境の中、姉の研究は順調に進み私は脊椎と脳を電脳化する事で義肢を操作できる目処が立った。

精神をすり減らした姉の研究が終わり私も元に戻れるかもしれない

という矢先にある問題が露呈した。

「動力」の問題だ。

人間の動きを完璧にトレースできる義肢を開発したのは良かったが、それは人間の作るエネルギー量を遥かに超える代物だった。

バッテリー駆動だと電池切れの時に命に関わる。体内からエネルギーを回すにはエネルギーが足りな過ぎる。

そんな問題に頭を抱えている時、ある人物が姉の元を訪れた。

篠ノ之束博士だった。

束博士は姉にあるISSのコアを託し、こう言った。

「きーちゃんを助けてあげる、きーちゃんの大嫌いなISSを使つてね」

こうして動力にISSを用いた私の専用義肢と専用ISS「コンダクタ」が完成した。

あの時の事を振り返ると篠ノ之束博士は、まるで甘言を囁く悪魔の様だったと姉は言う。

何かを得るには何かを代償にしなければならない。

姉は自分の信念を犠牲にISSを、私は瀕死の怪我から新しい力を受け取った。

## 人物設定及びオリジナルIS設定（前書き）

2011/5/25 ISの名称を変更しました。

## 人物設定及びオリジナルIS設定

### 人物設定

葛城 頼人（かつらぎ たのもと）

人工のIS適応者で過去の事故で脳と脊椎を電子ユニット化している。また、それに合わせて四肢が高度な義肢化を施されている。

性格は穏やかで、いつも暇そうにしているが割と良く物事を観察、考察している。

典型的な昼行灯。

特技は料理と手品。

趣味は読書、映画鑑賞とレンタルビデオ店、古書店、リサイクルショップ巡り。

ISの操縦は電腦による女性型思考のエミュレートが必要で、操縦技術は現段階では一般の搭乗者程度。

葛城技研のISテストパイロットおよび電腦化実験の一号被験者。

葛城桔梗（かつらぎ ききょう）

頼人の姉で葛城技研の所長でもある。

事故で亡くなった両親に代わり葛城技研の所長となった。

束博士と初期のISの研究をしており白騎士のハードウェア開発に携わった。

この経緯から織斑千冬とも面識がある。

束博士とは設計思想の相違、特に武装化の点で反対し決別した。

## IS設定

専用IS「コンダクター」

遠・中距離支配戦闘型ISとして葛城技研で開発されたIS。弾道軌道による高速移動、膨大な拡張性、熱光学迷彩による圧倒的なステルス性能、そしてそれを用いた戦闘性能を同時に実現し様々な戦場を支配する。

葛城はこれを操縦するためコアユニットに自らの人格をダビングしそれを女性型思考に変換して適応性を高めている。

## 装備

ビームピストル？

本体からエネルギーを供給しビーム弾を発射するビーム兵器。コンパクトで取り回しが良い。二丁装備している。

ロングブレードライフル

ビームピストルにブレードバレル、エネルギーパック付きストックを取付けた遠・中距離ビーム兵器。バレルは熱にかなり強くできており、ビーム弾の連射または、高出力のビーム弾の発射が可能。

また、銃身下部に高周波ブレードを装備しており近接戦闘能力も有する。これも二丁装備している。

クローシヨルダージュニット

肩に取り付けられた装備。顎の様な構造をしておりビームショットガンを内蔵している。ここにロングブレードライフルを取り付け高出力ビーム弾を発射する事が出来る。

シールドキャノン

両腕のシールドと一体になったビーム兵器。最大出力ではISを一撃で沈めることも出来るがその場合シールドの機能を失う。



貫手<sup>ぬきて</sup>

この機体には拡張領域に収納されている近接戦闘腕部パーツがあり、戦闘中に換装する事ができる。

指先が鋭利になっており腕部フレームを射出する事で、ISのシールドを貫く一種のシールドピアスである。

### 熱光学迷彩

葛城技研渾身の逸品である。

IS研究機関などで研究されている光学迷彩を更に改良した物で装着した物の熱反応すら欺瞞する。

使用の際にはエネルギーを消耗し拳銃シールドエネルギーをも消耗してしまう。

### カウンターIS

篠ノ之束博士が宇宙開発の為に開発したISは兵器としての進化をたどる事となった。

博士はこの事態に強い危機感を持っておりISが人類に災厄をもたらす事態になった場合に全てのISをコントロールできる指揮型ISコアを開発した。

そのコアは葛城桔梗に託されコンダクターのコアとなりカウンターISと呼ばれることとなる。

## 人物設定及びオリジナルIS設定（後書き）

物語の進行に合わせて随時更新していきます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3372t/>

---

IS インフィニット・ストラトス ~力の使い道~

2011年10月8日20時55分発行